

平成 27 年度「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」

「三陸みらいシネマ」

取組事業名

【シネマテーブル事業】映像から得た気づきや、地域のビジョンを共有する【ソーシャルラボ事業】地域の課題の解決策を探り、実践する【ムービースタジオ事業】地域の活動を記録・発信して、多くの共感を得る

岩手県三陸沿岸を主とした各市町村

学校名

実施先：岩泉高校、宮古市率田老第一中学校、宮古私立藤原小学校、岩手県立大学 協力・連携先：釜石高校、宮古高校他

※該当する内容に○

活動内容

	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
学校支援	○				○
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	学童クラブとの連携	その他
	○	○			
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
	○	○	○	○	○
家庭教育支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
地域課題に応じた額習	高齢者支援	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
	○	○	○	○	

取組概要

【シネマテーブル事業】

実施先市町村や学校の課題や地域特性を踏まえ、地域の未来を考えるための映像上映と語り合いの場を各地域で実施

【ソーシャルラボ事業】

タブレットやロボットなど ICT 活用したプログラミングや活用の放課後ワークショップ、地域資源や地域文化を用いた世代間交流イベントの実施および実施支援

【ムービースタジオ事業】

地域の特性や歴史、文化の価値を確認、再発見し共有する映像制作を各地域で実施



事業成果

【シネマテーブル事業】

・震災前の地域の映像の発掘と活用、農林水産資源の価値を描いた映像作品、地域と学校の協同について考える映像作品などを活用し、持続的な地域の発展を考えるための対話の場を各地域で実施した。このことにより地域活性のイベントの実施、伝統芸能の復興、若者世代への地域コミュニティ参画とその価値を考えるきっかけや動機付けとなった。

・震災前の地域の発掘映像は久慈、宮古、釜石の3地域の中核施設と連携し、常設上映を実施。多くの市民と成果を共有した。

(3地域計約4700名程度の視聴実績)

【ソーシャルラボ事業】

・岩泉町、宮古市、釜石市、盛岡市ではロボットやタブレットなど次世代に必須となる ICT ツールやプログラミングの理解と実践を専門の講師を招聘し実施した。これをきっかけに岩泉高校文化祭でロボットの活用や、宮古市内高校生による放課後クラブが発足し、沿岸地域では触れる機会の少ない先進技術に対する自発的な取り組みが行われた。

・釜石地域では震災前後の地域の歴史や文化重ね合わせた市民参加の地図の制作プログラムを実施、完成時の地域の価値を再確認する学びのイベントでは、多世代の交流によりコミュニティ再生に繋がる知識の交流が図られた。

・釜石地域では住民主導による「シネマテーブル事業」や上映会などが自主的に継続する目標を持った「釜石シネクラブ」の組成と運営を支援し、次年度以降も主体的な運営に向けた体制作りが進められた。

平成 27 年度「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」

【ムービースタジオ事業】

- ・岩泉高校では、アメリカへの研修に参加する生徒が英語で地域を紹介する映像作品の制作を指導した。これにより広い視野で地域を俯瞰し、地域の価値や文化を異なる文化圏の人びとに説明する映像が生み出され、映像を用いたプレゼンをアメリカで実施した。
- ・宮古地域では宮交高校の生徒有志が防災をテーマにした映像の制作を指導した。調査取材の中で、防災の基盤となる要素を「顔の見える地域コミュニティ」との気づきを得、それをテーマとしたドキュメンタリー映像を制作、同市内で開催された映画祭や市民会館で上映され、若者から高齢者まで幅広い世代に自身の気づきとメッセージの発信を行った。
- ・宮古私立藤原小学校では「総合的な学習の時間」を使い、学区内にある港湾施設「藤原埠頭」をテーマにした「藤原みなどシネマ」を制作した。制作課程では地域市民への取材を行い、またタブレットでの撮影や映像編集ソフトを利用した制作を班や個人で行い完成させた。
- ・釜石地域では釜石高校の生徒有志が、昭和 45 年開催の岩手国体と H28 年度開催のいわて国体をテーマにスポーツをきっかけとした地域づくりを考える映像の制作を指導した。映像では昭和 45 年の釜石地域の映像の活用、また現在の国体の関係者への調査を組み合わせ、市民が集うイベントの場で上映し、釜石地域での国体実施の価値を再確認し市民の参加を呼びかけた
- ・上記の取り組みにおいては、制作に必要な撮影、編集機材を貸与とインターネットを使った専門家の指導を組み合わせ、実社会でも活用できる水準の ICT スキルの向上と取得を行った。

課題と今後の取組

【シネマテーブル事業】

・若年層や高齢者など交通弱者の多い地域では、都市部では鑑賞可能な、持続的な地域の発展に資する優れた鑑賞映像の鑑賞が依然として難しい。これまで復興支援のアウトリーチプログラムとして実施されてきたが、復興支援事業の縮小に伴い、今後は地域住民による主体的な取り組みが求められている。三陸みらいシネマでは引き続きノウハウの提供や運営支援などを行っていく。

【ソーシャルラボ事業】

・インターネットやスマートフォン等の発達により、三陸沿岸部でも最新の情報が入手できるようになってきたが、三陸沿岸部地域内には基礎知識やリテラシ、活用を指導できる若手人材が少なく、学びの環境における都市部との格差の広がりが懸念される。これらの解消、また時勢に合わせた新たな知見の導入には、地域を超えた連携や支援の枠組み、体制づくりと両者を繋ぐコーディネーターの存在が不可欠である。

【ムービースタジオ事業】

・「読み」「書き」に続き、これからのコミュニケーションや自己表現において必須のスキルとなってきている、映像に関する理解や作成のリテラシやスキルの形成は小学生～高校生など若年層では、三陸沿岸部においても学校や地域との連携によるプログラムの実施で著しい向上見られた。しかしながら本事業で実施されたプログラムは、一部学校や意欲を持つ生徒に向けた特別授業や不定期のイベントとしての実施であり、地域全体としての継続的なスキルの底上げを図るには、包括的な施策、復興事業とは別の一般施策での取り組みが必要である。また同時に地域の指導者に対し理解の促進と基礎知識の習得を図るプログラムの導入、また地域の導入に際し地域と教育の現場を繋ぐコーディネーターの活用も不可欠である。

三陸みらいシネマでは 2 年間、本事業に取り組んだコーディネーターを引き続き地域に配置し、蓄積されたノウハウの共有や新たな課題や取り組みに対応する体制の維持に向け検討を進める。